

第2号 2020年3月

## ユマニチュード メッセージ・リレー Message Relay

安藤 夏子 あんどう なつこ

医療法人社団東山会 調布東山病院（東京都）ユマニチュード推進室 科長  
看護師／ユマニチュードチーフインストラクター

日本ユマニチュード学会 教育委員長

安藤夏子さんとは、2016年インストラクター養成研修から活動を共にしています。現在は、全国のインストラクターの指導的役割を担う、日本ユマニチュード学会の教育委員長も務められています。たくさんのユマニチュード実践に取り組まれており、現場での柔軟な対応力や漫透へのリーダーシップを持つ、素晴らしいインストラクターです。（安武澄夫／日本ユマニチュード学会 広報委員長）

調布東山病院の安藤です。ユマニチュード推進室という当院独自の部署で科長をしています。

推進室の役割である“組織にユマニチュードのケアを根付かせる”ことを目指して毎日奮闘しています。今、現場で力を入れていることは急性期病院での「予防ユマニチュード」です。認知機能が低下している方や、高齢の方、脆弱な方等にとっての入院は時として「治療のメリット」よりも「入院生活によるデメリット」のほうが上回ってしまうことがあります。それを少しでも防ぎたい。そこでユマニチュードのケアを「予防」という視点で捉え、入院初期にアプローチの重きをおくことにしました。病棟管理職・スタッフと連携し、まずは入院直後のご本人に接して安心を届ける、次にケアのポイントをスタッフと共有することで、入院による弊害をなるべく起こさずに早期退院に繋げることを目指しています。その際、大切にしたいと思っていることは、ご本人らしさを奪わないようにすることです。本人らしさとは、生きて

きた人生のなかで積み重ねてきた全てのことからつくられています。

それを大事にすることを心掛けていますが、それはつまりは自分が受けたいケアでもあります。私個人は『どんな状況でも、どこで生活をしていても、自分らしさを奪われずに人生を全うしたい』と思っています。今日の前にいる方にとってもそうかもしれない。そう考えたときに、ユマニチュードのケアは院内にどまらず、地域にも広まっていくことが願いです。

福岡市のような取り組み（学会だより1号）を試みる自治体が増えていき、地域全体で良いケアを目指すなかでユマニチュードがお役に立てたらとても嬉しいです。

次のバトンは、福岡県久留米市の聖マリア病院でユマニチュードに取り組む13名の精鋭チームに渡します！

メッセージリレーは公式ホームページでも公開しています。

日本ユマニチュード学会第1回会員ミーティングが開催されました。

新型コロナウイルスの拡散リスクを避けるため、インターネットを通じたオンライン開催となりましたが、北海道から沖縄まで多くの会員の皆様にご参加頂き「良いケア」について共に考える時間となりました。ミーティングの模様は後日、映像にて配信予定ですのでぜひご覧下さい。



### 最近のできごと

1月

- ・コーネル・ニューアカデミーのチャリティー公開講座にて、本田代表理事が講演を行いました。
- ・小学校「介護ボストセブン」にて、大島寿美子理事のロングインタビューが掲載されました。
- ・京都大学付属病院 看護部管理者研修にて、本田代表理事が3日間に渡り講演を行いました。

2月

- ・読売新聞「医療ルネサンス」にて全6回のユマニチュード特集が掲載されました。
- ・内閣府 日本学術会議の学術フォーラムにおいて、本田代表理事・中澤篤志理事が講演を行いました。
- ・京都大学で開催された吉川左紀子理事の退官記念講演会にて、吉川理事、ジネスト先生が講演をしました。

3月

- ・医学書院「訪問看護と介護」3月号にて、ユマニチュードが特集されました。
- ・ラジオ日本の「よみラジ」にてユマニチュードが取り上げられました。

活動報告・予定は、随時公式ホームページや公式facebook、メールで発信していきます。

Japan Humanitude Association

「学会だより第2号」編集：安武澄夫（広報委員長）、本田美和子、日本ユマニチュード学会事務局

ユマニチュード  
実践カード

2

## ケアの哲学

「人間とはなんだろうか」という問い合わせ、  
ユマニチュードにはあります。

ユマニチュードでは、人は誰かに、  
『あなたは人間です』『あなたは大切な存在です』と  
伝えてもらうことで、人として存在できるとしています。  
人は、人生を通じて、コミュニケーションの柱である  
「見る」「話す」「触れる」というメッセージを、お互いに伝え合っているのです。

